

不相様致度旨調所札幌縣令ノ内陳ニ有
之篤ト考按ヲ降ニ後ニ實以不心得ノ後ニ
特別ノ保護ヲ加ヘ移住セシムルハ其實功ナキハ
勿論他移住者ノ妨害トモ可相成次第ニ付
右等不心得ノ後ニ無之著實穩當ノ志願者
ニ限り先ツ當春百戸ヲ移住セシメ他ハ將來
確然ノ認メ相立假上可及詮議青島水縣
令ヘ相違紙ヲ弊害ヲ豫防シ勉メテ該舉ノ好
果ヲ結ハシメシラ企圖仕度即チ札幌縣令内
陳書及附屬書類相添此段上申假也

明治十六年正月十日

農商務卿西御從道

太政大臣三條實美殿

上申ノ趣聞届候事

明治十六年二月十二日

限リ先ッ当春百戸ヲ移住セシメ他ハ将来確然ノ
認メ相立候上可及詮議候条右百戸ノ分ハ不日
北海道三縣ヨリ管内ハ布達可相成移住士族取
扱規則ニ依リ其縣ノ添書ヲナシ移住地々方廳
出願セシメ候義ト可相心得共旨相達候事

年 月 日 御

(奉勅書ハ札幌縣令内陳書ヲ按察シテお添可
然哉)

士族移住ノ義ニ付上申

他府縣士族北海道ニ移住ノ義ニ付テハ曾テ御達ノ
趣モ有之取扱方法等當今同中ニ候處鳥取縣士
族足立長根外三名ノ者該縣士族移住地撰定ノ
為メ總代トシテ昨年當縣下ハ蕨越候ニ付特ニ
勸業課員ヲ派出シ各所案内巡回セシメ候顛末別
紙写ノ通ニ有之熟考仕候處是ホノ者ハ彼令政
府優渥ノ保護ヲ加ヘラルモ到底從順就産ノ目
的無之ノミナラス及テ他ノ移民ニ對シ言フヘカラサ
ルノ妨害ヲ醸生スルモ難計實ニ無益ト存候
間斷然之レヲ許容セラレズ他府縣士族中着
實ノ目的ヲ以テ其恩ニ報スルノ精神アル者ヲ
撰抜移住セシムル撰仕度共段内陳仕候也

豊前府

明治十六年一月十日 札幌縣令調所廣文下

農商務御西御徒道殿

札幌ヨリ電報寫

豫テ洋札ノ馬取縣士族臨時代四名ノ内五立外
二名出系ノ積少以テ案然昨日毎届ニテ出費
之目行ノ田代ヨリ路ニテ届出タリ甚々少額
後有向人ホハ極任サスモ無益ト存ス事細部
便

十五年十二月廿七日

調所縣令

佐藤大吉 抄及

農商務省

兼テ鳥取縣ヨリ士族移住地撰定ノ為メ出札致
居候總代三之長根外三名ノ者共管下ニ於テ農
業ヲ以テ能ク最初ノ目的ヲ達シ得タル村落
千有珠当別ノ實況ヲ見聞奉勸業ヲ負ニ先
導ヲ命ジ且兩伊達ニモ移住ノ際數多ノ辛苦
シ嘗ノ漸ク今日ノ成績ヲ奏セシ顛末細大洩サス
談話致シ彼等ヲ感發セシメ候様添書ヲ付シ差
向キ空知方面ヨリ当別村ニ至リ頃日一先帰札勸
業課負ノ復命ニ依レハ当別村ニテ伊達吾妻
ホノ親密ナル談話モ更ニ感スルノ色ナク其主義タル
政府ハ素ヨリ士族授産ノ責任アルモ故今回移住
ノ如キモ通常ノ土民同一ノ取扱ニテハ到底不充
分ナリ林ト漫信致居候様子ニ有之尚其上別シ

豊前藩

豊前藩

テ督責之毫モ及借不致ハ勿論ニ候一氏右ホノ忘
想ヲ以テ移任スル様ニテハ結局保護モ其効ナ
キ義ニ付移任者ハ及令蒙多ノ艱難ニ遭遇ス
ルモ力食耐忍ノ精神ハ勿論此際保護アル以上ハ
飽コテ官廳ニ服従スルヲ以テ最大義務ト心得
候者ニ限ルキ義鳥取縣令ニ於テモ充分調査
候様馬ノ法懇話置相成度申使ニ托シ共段
得法意候早々拜呈

十五年十二月廿六日

佐藤勇頭

調所縣令致

魚テ滞札致候鳥取縣士族徳代ノ者共異向
キ当別空知方面見聞ノ顛末勦業得負ノ復命
ニ依リ昨日不取申進置候末拙者曰人ホテ呼
寄セ候有珠郡移民ノ実況ヲ馬ノ見聞ノ上候
略函致ハ出ル方可然且ハ政府優渥ノ保護ニ
ルハ飽マテ上司ニ服従シ夙夜置勉誓テ恒産ヲ
興スニ在リ詰与経力食ノ外ナキ者懇馬申聞
ケ何レモ系服致候交本日電致ニテ不取申
進共通リ右徳代四名ノ内呈立長以外二名ノ者共
本縣ハ無局ハ勿論付添官使一モ單ニ旅費欠乏
共ヨリ一旦出京金作ノ上当地一立歸ルキ者申
述共ノミニテ突然昨日午后ノ津津ニテ出立共
様子悉ニテ付添官使ヨリ申出共尤曰官使ノ致

法ニヨシハ右徳代ノ者共最初出國ノ際士族移住
土地指定ノ為メ者道一撥此致度者候縣一届出
其交縣廳ヨリ特別ノ詮議ヲ以テ旅中至般ノ往費
トシテ各々金百六拾五圓ツ、ヲ給与セ給然ニ送銀
ニ着スルヤ既ニ旅費欠乏ニ付付添官吏ヨリ更
ニ金五拾圓ツ、ヲ貸与セシニ是ヲモ忽チ消費シ
小樽札幌石狩ホ到ル交旅費欠乏ノ旨申出候由
共後官吏モ其後ハ断然お断り貸与不致致右ハ
全ク途中消費費ヲ極メテ様子ニ有之味ニ詮議吏
カ彼ホニ金百圓ツ、ヲ貸与セシ詎モ徴收セントスルニ
士族ニ向ヒ証書ヲ徴スルハ失敗ノ所為杯ト申述
一刺ハ当別村移民ノ如キハ元ト仙台ノ者ニテ
誠ノ名ヲ受テタルヲ以テ辛苦ヲ嘗ムルハ固ヨリ

当然ナルモ僕等ハ士族ノ種類異ナルハ移住ノ際毫
モ困難セサル様政府ヨリ優待セサルハカラス若シ一
優渥ナル保護ヲキニ於テハ「アラスカ」ヲ採ルヨリ寧
口銃器ヲ取ルニ如カス故ニ腕力ニ訴ヘ政府ニテ之
レカ鎮定ニ費スルニ多額ヲ以テ士族控産ノ保護
費ニ充ツル中ハ公私兩便杯ト無法ノ事共申述候
趣ニテ該官吏モ今日ニ至リテハ殆ント当惑落膽
ノ様子、お見恩本縣勤業御負ヨリモ日様申出
刺ハ彼ホ空知方面ヨリ一旦内札ノ際拙者ヨリ獨
告諭數候事モ承知致シテカテ忽然トシテ無届
出矣、始末及ヒ右ホ無法ノ事勤ハ實ニ寛候ス
ヘカテサル放蕩無頼ノ者共ト見認メサルハカラス素
士族移住ハ容易ナラサルハ大疑問ナルニ况テ右様無

道暴慢ヲ主義トスル者ノ如キハ政府ニ於テ断然
 相当ノ法處分有之コソ肝要ニテ保護程々示
 思モ宜クテハ義ト存候仍テ杜者ノ見江ニテハ鳥
 取縣士族ニシテ果シテ皆共ノ如キモノトセハ当縣
 下へ移住セシムルモ到底当道開進上無益有害
 ニ屬シ候ニ付該縣士族ニ限リ断然移住ヲ再絶
 セラレテ方何致成ニ存候程々示及後令ハモ法内法成
 小願未農務及後令ハモ法内法成
 并探致及後令ハモ法内法成
 勿々不備

十五年十二月廿七日

調所縣令致

佐藤秀致

秘

農辰甲六號

明治十六年二月六日

大臣

内閣書記官

農商務省上申鳥取縣士族北海道
 移住處分之事
 右田議、供ス

參議

山縣	大木
井上	伊藤
松方	齋藤
川島	山西
佐藤	天山
	福岡

一見之斯、のキキテシテ移住セムルニ到る迄切ナキ
 ノミナリト却テ地ノ移住者ノ妨者トシテ成ニ成ニ地
 許方移住者一子ノ内者其ノ志願者ヲ預ニ當ル者
 百戸ヲ移シ地ニ移来陸地移住者上移住ノ證據
 及び其ノ移住者ノ姓名ヲ知ラシメテ移住ノ證據
 ナントノ事知ラ有之者トシテ移住可移住ル件ニ移住
 移住証代トシテ出渡セシモノトシテ當部ノ切シテ
 一特約百戸ヲ移シ地ニ移住ル者トシテ移住ル者
 移住者ノ姓名ヲ知ラシメテ移住ノ證據トシテ
 先以上ノ事知ラ有之者トシテ移住可移住ル件ニ移住

裁り也

以移住案

上中ノ移住案

明治十六年二月十二日



秘

第一局

家禄ノ處分ニ取船シテ勸業資本金貸下

ニ義ニ付上申

秋田縣下田久保田藩ニ於テ従来士族俸禄
 未ノ内借上未ト唱ヘ其家分ヲ相減跡餘ヲ
 相渡未俟露明迄二年六月ニ藩藉奉還已後
 藩政府ニ藩知事トノ經濟ヲ分割セルニ係
 ハラス借上未ヲ因襲セシハ即チ谷義ノ係
 ル露藩債ニシテ之ヲ六年三月第八十二号公
 布ニ照シテ露家分可取成モノト一途ニ思込
 ヲリ繼續債務ニテ不已老借リ上未ナルモハ元
 未ニ藩費ノ不費ヲ補フ一キ為ノ當時便宜
 減禄ノ案ヲ行フタルノ例ハ各藩ニモ之シカラ

六

甲二九九

農商務省